



タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学\_人文・社会科学科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110566007001	科目番号	05660070
授業科目名	●法と政治(戦争のトラウマ)		
編集担当教員	安部 俊二		
授業担当教員名(科目責任者)	安部 俊二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	安部 俊二、小峯 秀孝		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]205		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	abe-s@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部本館6階617研究室		
担当教員TEL	(095)819-2309		
担当教員オフィスパワー	水曜6講時		
授業のねらい	20世紀は「戦争と大量殺戮の世紀」であった。ここでは、人間社会最大のストレスラーである戦争が人間にもたらす破壊的・長期的な心理的影響とそこから困難な回復過程を検討する。「新たな戦前」とも言うべき状況下にいる私たちにとっては、単なる過去の問題ではなくすぐれて現実の問題である。		
授業方法(学習指導法)	ドキュメンタリー映像を中心に文学作品・映画・手記・講演などをテキストに考える。		
授業到達目標	戦争が人間に対してもたらす心理的な影響を理解し、戦争への想像力を高めたい。映像による「戦争の心理学」であり、戦争への一つのアプローチである。		
授業内容	<p>最初に戦争の心理学的側面を理解するために、理論編として「戦争トラウマ」論の概要を説明し、次に具体的に第一次世界大戦・第二次世界大戦、戦後65年の戦争がもたらした心理的な戦争後遺症の実態をドキュメンタリー映像などを見ながら検討する。</p> <p>0. 戦争の心理的影響：戦争トラウマ(第1・2・3回)</p> <p>1. 第一次世界大戦とシェル・ショック(第4・5回)</p> <p>2. 第二次世界大戦と心的外傷(第6・7・8・9・10・11・12回)</p> <p>①強制収容所症候群</p> <p>②ヒバクシャの心の傷[小峯秀孝さん]</p> <p>③日本兵の戦争神経症—中国戦線—</p> <p>④米兵の戦争神経症：沖縄地上戦</p> <p>3. 戦後65年の戦争と戦争トラウマ(第13・14・15回)</p> <p>①韓国人帰還兵のベトナム症候群</p> <p>②米兵の戦争後遺症—イラク戦争—</p> <p>③9・11テロリスト収容所—アフガン戦争—</p> <p>4. 定期試験(第16回)</p>		
キーワード	トラウマ、戦争—心理的側面、民間軍事会社		
教科書・教材・参考書	<p>教科書：D・グロスマン『戦争における「人殺し」の心理学』(ちくま学芸文庫)</p> <p>参考書：野田正彰『戦争と罪責』(岩波書店)A・ガーディナー『戦争ストレスと神経症』(みすず書房)J・ハーマン『心的外傷と回復』(みすず書房)</p> <p>B・ラファエル『災害の襲うとき：カタストロフィーの精神医学』(みすず書房)清水寛『日本帝国陸軍と精神障害兵士』(不二出版)井村恒郎『現代病：おのれを失える人々』(光文社)S・グレイ『CIA秘密飛行便：テロ容疑者移送工作の全貌』(朝日新聞社)福岡賢正『小さき者たちの戦争』(南方新社)</p>		
	定期試験の成績(50%)と毎回視聴するドキュメンタリー作品の分析・考察のレポート(50%)(A4判1枚程度)、出席状況		

成績評価の方法・基準等	を総合評価する
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	開講時に参考文献を紹介します。



-----  
Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



## シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学\_人文・社会科学科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110566007004	科目番号	05660070
授業科目名	●法と政治(環境と法・政策)		
編集担当教員	菊池 英弘		
授業担当教員名(科目責任者)	菊池 英弘		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	菊池 英弘		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]104		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	hkikuchi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境科学部416		
担当教員TEL	内線2717		
担当教員オフィスアワー	金曜日13:00~14:30		
授業のねらい	環境をめぐる法と政治について、基本的な理念、法制度、政策の方向性についての基礎的な知識を得、それに基づいて今後の環境政策の方向を考える基礎能力を得ることをねらいとします。		
授業方法(学習指導法)	授業は講義形式で進め、進捗に応じて資料を作成、配布します。理解度の確認のため、授業中に発問することがあります。		
授業到達目標	地球温暖化対策をはじめとして、環境政策は急速に変化、発展しつつあります。学生諸君が環境法・環境政策についての基礎的な理解を獲得し、社会人として備えることが期待される素養を得ることを到達目標とします。		
授業内容	第1回の授業では、この講義の進め方やねらいなどを説明します。第2回以降の授業は、教科書は指定しませんが、進捗に応じて資料を作成配布し、以下に掲げる予定に従って進めます。		
	回	内容	
	1	イントロダクション	
	2	環境法・政策の歴史的経緯	
	3	環境法・政策の理念・原則	
	4	環境法・政策の基本的な枠組み(1)	
	5	環境法・政策の基本的な枠組み(2)	
	6	低炭素社会と環境法・政策	
	7	環境汚染と環境法・政策(1)	
	8	環境汚染と環境法・政策(2)	
	9	循環型社会と環境法・政策(1)	
	10	循環型社会と環境法・政策(2)	
	11	自然共生社会と環境法・政策(1)	
	12	自然共生社会と環境法・政策(2)	
	13	国際社会と環境法・政策(1)	
	14	国際社会と環境法・政策(2)	
15	まとめ		

	16 試験
キーワード	
教科書・教材・参考書	資料: 講義の進捗に応じて資料を作成、配布します。 参考書: 講義の中で適宜紹介します。
成績評価の方法・基準等	定期考査(90%)によります。ただし、授業への積極的な取組状況を評価に加えます(10%)。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System

メニューへ  
MENUログアウト  
LOGOUT

シラバス関連 &gt; シラバス参照 &gt; シラバス検索 &gt; シラバス一覧 &gt; シラバス参照

[Login User](#)

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1800秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学\_人文・社会科学科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



戻る

学期	後期	曜日・校時	月2																												
開講期間																															
必修選択	選択	単位数	2.0																												
時間割コード	20110566007003	科目番号	05660070																												
授業科目名	●法と政治(グローバル化時代における国家再構築)																														
編集担当教員	谷川 昌幸																														
授業担当教員名(科目責任者)	谷川 昌幸																														
授業担当教員名(オムニバス科目等)	谷川 昌幸																														
科目分類	人文・社会科学科目																														
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																												
教室	[全]102																														
対象学生(クラス等)																															
担当教員Eメールアドレス	peaceandrights@hotmail.com																														
担当教員研究室	教育学部609研究室																														
担当教員TEL	2308																														
担当教員オフィスアワー	月曜日午後																														
授業のねらい	<p>いま途上国でさかんに取り組まれている国家再構築は、日本のような先進国にとっても非常に興味深い試みである。先進国では国家体制はほぼ固まり、根底からの原理的な問いかけはあまり見られない。これに対し途上国では、国家をどう構築し運営するかをめぐって、さかんに議論され、制度化が進められている。いまや、もっとも活発で意欲的な国家論・憲法論は途上国にあるといっても過言ではない。</p> <p>そこで、この講義では、現在、もっとも注目されている国家再構築の一つであるネパールの場合を例にとり、グローバル化時代において国家はどうか構築され運用されるべきかについて、原理的・基本的な論点をいくつか取り上げ、議論していくことにする。</p>																														
授業方法(学習指導法)	講義																														
授業到達目標	現代世界の憲法論・国家論の基礎知識を修得する。																														
授業内容	<p>(注)講義予定は、議論の展開、政治情勢の変化などにより変更する場合がある。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>制憲議会選挙</td></tr> <tr><td>2</td><td>憲法の制定</td></tr> <tr><td>3</td><td>包摂民主主義(1)</td></tr> <tr><td>4</td><td>包摂民主主義(2)</td></tr> <tr><td>5</td><td>共和制</td></tr> <tr><td>6</td><td>連邦制(1)</td></tr> <tr><td>7</td><td>連邦制(2)</td></tr> <tr><td>8</td><td>世俗国家(1)</td></tr> <tr><td>9</td><td>世俗国家(2)</td></tr> <tr><td>10</td><td>市民の権利(1)</td></tr> <tr><td>11</td><td>市民の権利(2)</td></tr> <tr><td>12</td><td>市民の権利(3)</td></tr> <tr><td>13</td><td>市民社会と政党</td></tr> </tbody> </table>			回	内容	1	制憲議会選挙	2	憲法の制定	3	包摂民主主義(1)	4	包摂民主主義(2)	5	共和制	6	連邦制(1)	7	連邦制(2)	8	世俗国家(1)	9	世俗国家(2)	10	市民の権利(1)	11	市民の権利(2)	12	市民の権利(3)	13	市民社会と政党
回	内容																														
1	制憲議会選挙																														
2	憲法の制定																														
3	包摂民主主義(1)																														
4	包摂民主主義(2)																														
5	共和制																														
6	連邦制(1)																														
7	連邦制(2)																														
8	世俗国家(1)																														
9	世俗国家(2)																														
10	市民の権利(1)																														
11	市民の権利(2)																														
12	市民の権利(3)																														
13	市民社会と政党																														

	14	議会・内閣・裁判所
	15	安全保障
	16	定期試験
キーワード	グローバル化, 国家, 憲法, 人権, 民主主義, 平和構築	
教科書・教材・参考書	参考書: 篠田英朗『平和構築と法の支配』創文社; 安田信之『開発法学: アジア・ポスト開発国家の法システム』名古屋大学出版会; 『アジア憲法集』明石書店; 岩波講座『憲法1-6』岩波書店	
成績評価の方法・基準等	期末試験60%, レポート40%	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



## シラバス参照

LiveCampus

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学\_人文・社会科学科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



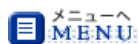
学期	後期	曜日・校時	水2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110566007006	科目番号	05660070
授業科目名	●法と政治(日常生活と法)		
編集担当教員	大内 和直		
授業担当教員名(科目責任者)	大内 和直		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	大内 和直		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]429		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	dahnei@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部 本館603号		
担当教員TEL	095-820-6362		
担当教員オフィスアワー	水曜日13時～14時30分(学生に必要な事務的手続きに対処するために入室する)		
授業のねらい	日常生活でよく見かける書面の意味を探る。たとえば、領収書は支払いを証明するものだとわかるが、何を根拠にして発行されるのか。また、土地をめぐるトラブルに出てくる「権利証」とは何か、など。いくつかの書面を取り上げて、その内容や意味を探る。そのことにより、書面の重要性や必要性を認識し、自分の権利を守るために必要な知識を得る。		
授業方法(学習指導法)	通常の講義を行なう。事前に配布するプリントに沿って各回のテーマを紹介し、スクリーン(またはパネル)に資料を提示しながら解説する。		
授業到達目標	講義の内容が理解できた後は、日常生活で見かける書面の意味がわかるようになる。また、必要な書面かどうかを判別できるようになる。特に、証拠としての意味をもつ書面については、文字や印影のうちのどこが重要なのか、説明できるようになる。		
授業内容	講義は、各回ごとに設定したテーマに沿って行なう。テーマは以下のとおり。		
	回	内容	
	1	基本概念とよく使う用語	
	2	取引と多種多様な書面	
	3	値段札の意味すること	
	4	金銭支払いと領収書	
	5	領収書の進化のあと	
	6	不動産取引と権利証	
	7	権利証の正体と役割	
	8	中間まとめ	
	9	契約書はどんなとき必要か	
	10	契約書の形式(付録…ハンコの重み)	
	11	契約書を伴わない取引1(慣習的取引)	
	12	契約書を伴わない取引2(普通契約約款)	
	13	広告・パンフレットはこう読む	
	14	書面とうまく付き合うための知識	
	15	全体まとめ	

	16 定期試験を実施
キーワード	書面、債権・債務、弁済、証拠証券、有価証券
教科書・教材・参考書	民法入門第5版(幾代通・遠藤浩 編;奥田昌道 補訂)有斐閣双書[4-641-11266-5]¥1,900
成績評価の方法・基準等	上記の目標に対して達成度を定期試験によって評価する。(配点率100%) 出題された書面の意味、必要性、作成される根拠などを適切に解答できるかどうかによって評価する。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.





タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学\_人文・社会科学科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	水3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110566007002	科目番号	05660070
授業科目名	●法と政治(現代社会と洗脳)		
編集担当教員	安部 俊二		
授業担当教員名(科目責任者)	安部 俊二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	安部 俊二、浅倉 良一、岡本 真寿美、森井 徹		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]205		
対象学生(クラス等)	1年・2年・3年・4年		
担当教員Eメールアドレス	abe-s@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部本館6階617研究室		
担当教員TEL	(095)819-2309		
担当教員オフィスアワー	水曜5講時		
授業のねらい	洗脳を宗教・政治・経済カルトに限定せず「密室的状況を利用しての(強制的)思考転換」として理解すると、多くの社会現象は洗脳的人格を帯びたものとして把握できる。本講義では、①洗脳の視角から現代社会を分析することによって新たな社会像を模索し、②「犯罪と人権」に関する基本的な考え方を学ぶ。具体的には、犯罪被害者(支援)、冤罪被害、犯罪報道、死刑、裁判員裁判について理解を深め、国民の「裁判参加」に対応できる基礎的な知識・考え方を身につける。		
授業方法(学習指導法)	ドキュメンタリー映像、講演、映画を「テキスト」に「現代社会と洗脳」「犯罪と人権」の問題を考える。		
授業到達目標	①洗脳という視角からの現代社会分析の理論的枠組みを習得すること、 ②犯罪と人権についての基本的知識・考え方を習得すること。		
授業内容	講義では、まず洗脳の理論的概要を説明し、ドキュメンタリー映像をテキストに、現代におけるいくつかの社会現象の洗脳的人格を検討し、最後に犯罪と人権についての基本的事項を理解する3部構成である。 0. 洗脳の基礎理論(第1・3回) 1. 現代社会と洗脳(第2・3・4・5・6・7・8・9回) ①アメリカ海兵隊新兵教育(第2・3回) ②ギリシャ憲兵教育(第2回) ③国家と狂気:旧ソ連特殊精神病院・大津事件・虎ノ門事件 ④「よど」号と拉致:北朝鮮における洗脳の事例研究 ⑤もう一つの「9・11」:チリ軍事政権下の拷問と弾圧 ⑥現代日本の洗脳:宗教・経済カルト、自己啓発セミナー 2. 犯罪と人権(第10・11・12・13・14・15回) ①犯罪被害者とその支援(「あすの会」・岡本真寿美) ②冤罪被害(興掛(浅倉)良一) ③犯罪報道(森井 徹・西日本新聞記者) ④死刑・裁判員裁判再考 定期試験(第16回)		
キーワード	洗脳、脱洗脳、新兵教育、特殊精神病院、北朝鮮、自己啓発セミナー、冤罪、死刑		
教科書・教材・参考書	教科書:櫻井義秀『霊と金』(新潮新書・2009年)小坂井敏晶『人が人を裁くということ』(岩波新書・2011年) 参考書:リチャード・キャメリアン『洗脳の科学』(第三書館)G・ハスフォード『フルメタル・ジャケット』(角川文庫)大熊輝夫『人間を変えるー洗脳のマカニズム』(筑摩書房)E・ハンター『洗脳』(法政大学出版社)R・リフトン『思想改造の論理』(誠信書房)浜田寿美男『新版白の研究』(北大路書房)同『白の心理学』(岩波新書)小林道雄『冤罪の作り方』(講談社文庫)秋山賢二『裁判官はなぜ誤るのか』(岩波新書)新藤宗幸『司法官僚:裁判所の権力者たち』(岩波新書)		
	定期試験の成績(50%)、毎回視聴するビデオ映像作品、講演の「レポート」(A4判1枚)(50%)を総合的に判断・評価す		

成績評価の方法・基準等	る。このレポートは「作品の分析・考察」であり「感想」を問うものではない。また指定文献の要約を課すこともある。
受講要件(履修条件)	学習効果を考慮して受講生の上限を設けることもある
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	配布する資料は必ず読んで、その「論理」を把握すること



-----  
Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System

メニューへ  
MENUログアウト  
LOGOUT

シラバス関連 &gt; シラバス参照 &gt; シラバス検索 &gt; シラバス一覧 &gt; シラバス参照

[Login User](#)

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1799秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育\_人文・社会科学科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

学期	後期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110566007005	科目番号	05660070
授業科目名	●法と政治(日本の税制)		
編集担当教員	角田 享介		
授業担当教員名(科目責任者)	角田 享介		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	角田 享介		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]321		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	kakuda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部東南アジア研究所318号室		
担当教員TEL	095-820-6331		
担当教員オフィスアワー	講義開始前および終了後。その他の時間については事前にEメールで予約を取ってください。		
授業のねらい	税金は我々国民の生活に密接に関わっており、どのような課税が行われるかについては国民の議論を通じて法で定められています。本講義では、日本の税制を学ぶことを通じて、経済・社会における法の意義・役割、そして法が制定される政治プロセスについて学習していきます。		
授業方法(学習指導法)	講義形式		
授業到達目標	日本の税制の現状、課題、検討されている改革の方向性について理解し、法と政治が自分の生活とどのようにかかわっているのかをイメージできるようになることを目的とします。		
授業内容	回	内容	
	1	イントロダクション	
	2	日本の税制の概要(1)	
	3	日本の税制の概要(2)	
	4	日本の税制の概要(3)	
	5	日本の税制の概要(4)	
	6	個人所得課税(1)	
	7	個人所得課税(2)	
	8	個人所得課税(3)	
	9	個人所得課税(4)	
	10	消費課税(1)	
	11	消費課税(2)	
	12	消費課税(3)	
	13	税制改正の動向(1)	
	14	税制改正の動向(2)	
	15	授業の総括	
16	定期試験		
キーワード	税金、税法、税制改正		

教科書・教材・参考書	特になし
成績評価の方法・基準等	定期試験(70%)、授業中に実施する小レポート(3回、各10%)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



-----  
Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.